慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済雑感
Sub Title	
Author	添田, 寿一
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.5 (1909. 12) ,p.473(47)- 489(63)
JaLC DOI	10.14991/001.19091200-0047
Abstract	
Notes	講演
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19091200-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

講演

經濟雜感

添田壽一

野蠻力卽ちバーバリズムと云ふものが、過去に於て世界を支配せんとしたと云ふの一事は、諸君の記憶に於て未だ新たなりと考へるのであります卽ち或國が東洋に向つて非常の勇氣を張り、而して國內に於ては其名宰相の政略に基いて工業政策商業政策に眼を注ぎ、內外相應じて非常なる雄圖を懷いて、宇內に雄飛せんとしたのであります。然るに其雄圖を懷いたる所の一大帝國は、不幸にして我が帝國の爲に其雄圖を打破せられたのであります。此てとは未だ吾人の記憶に新しくあるに拘らず、吾人が此大事件を見ること甚だ輕きを、私は遺憾とするものであります。未だ平和の破れざる以前に於て、私は帝國大學の、今日と同樣な學生諸君の御集りになる所の講堂に於きまして、文明が露西亞を和ぐるか、平和に導くか、若くは露西亞が此文明を打破るかと云ふ疑問を提出したことがあるのであります。當時其問題に就ては少しも私の言ふことに就て反響を得ませぬでありました、併し其得ませぬであつたのは、其後の事蹟が之を得ざりしことを却て幸ひならしめたのでありますが、若し反對の結果を見るに至つたならば、諸君果して如何。世界の歷史は確に一變致して居ります、就中我が帝國の安寧は正しく傷けられて居ります、正しく對岸の半島の如きは今日と狀態を、若くは其屬する所を異に致して居ると云ふことは、多言を要せずして諸君が明かに御認めになるべき事柄であらうと思ふのであります。卽ち此の東邦政策なるものが破れると破れざりしとは世界の文明、世界列國の將來に於て、一大變化を與へて居つたと云ふことは、少しく眼を世界の實勢に注ぐ者は明に認め得ることであります。それで私が其時に文明が露國を平和に導くか、露國が平和を壓伏するかと云ふことを申上げました時に

或る人は、それは露國を餘り重るく見過ぎはせぬか、と云ふ疑問を出されましたけれども、諸君の御承知の通り、文明と云ふものには、非常な弱點があつて、文明ほど壞れ易いものはないです、文明の組織ほど傷けられ易いものはない、卽ち高等動物の如きものであります。下等動物は例へば豚の如きは尻尾を切られても、臀肉を切られても餘り出血もせぬ位であります。然るにお互ひ人類と致しましては、中々臀の肉を切られて平氣で居る譯には行かない。此弱點ある文明の制度に向つて野蠻力に富んで居る所の國が一大鐵槌を加へるならば、此文明は直ちに打破らるゝものであります彼の諸君が歷史で御覽の通り、則ち羅馬帝國は北方の野蠻人類の爲に打崩されたと云ふあの歷史は明かに之を證明して居ります。加ふるに露國の巧妙なる外交、加ふるに露國の忍耐ある兵士を以て此文明の文學に今日を空過して居る所の虛に乘じて、所謂兵力を以て之に臨まれたならばです、一堪りもないと云ふことは、是はもう私が喋々を要せぬ事柄と思ふのであります。故に私が當時、露國の雄圖を若し其儘にして置たならば、文明の前途は危しと申上げたことは、私は今日と雖も、幸ひにして其間に意外の事變が起つたから、私の申したことが今日行はれて居りませぬけれども、若し反對なりせば或は私の其時の豫言ではない、過去の言葉が中つて居つたかも知れぬのであります、デ幸ひに我國が此文明の維持の爲に、文明の光の爲に、若くは少くとも自國の自衞の爲に、所謂三十七八年の戰役と云ふものを敢てしたと云ふことは、是は私は世界文明が大に謝して宜いことであると、豫て信じて居ることであるのです。卽ち是は世界の歷史に於ける所のツレーニングポイントである。お互ひが此ツレーニングポイントに遭遇し、目擊し、之を記憶に存することを得ると云ふのは私は非常に愉快なる時に生れたと、諸君と共に同慶に堪へないのであります。

斯の如き眼を以て此三十七八年戰役を目して居る人は、果して幾許かある、是は私は密かに我が

國民の、天下の事件を見るの眼識實驗謂はゞ測量の機械の鈍いのに大に日頃嘆いて居る次第であります。是が爲に列國の政策は總て變りました、列國の軍備の立て方も變つて居る、外交の執り方も變つて居る。此所に私が斯の如きことを申しても諸君の感じは薄いか知りませぬけれども、今まで露西亞の爲に備へられて居つた所の鐵砲は、歐羅巴大陸國に於ては、最早他の方面に向けられたのであります。就中獨逸帝國は、今まで露西亞に備へて居つた所の軍備は、最早其必要を見ざるに至つた。外交の中心も變つた、今までは露西亞を常に怖れて居つた所の外交官も、眼を他に轉ずるに至つたと云ふことは明かな事實であります。現に我國の方面に向ひつゝある。向つて居ると云ふことは、諸君が御考へになつたなら分らなくてはならぬ。三十七八年戰役前若くは戰爭中に起された、列國が我に對する所の感想、インプレッション若くはセンチメントなるものは如何、如何なる變化を爲したりしや、卽ち我を愛し我を稱贊したる言葉は、我を嫉み我を怖るゝに至つたではありませぬか。是卽ち此事變が我國に於けるよりは如何に周圍の列國に響いて居ると云ふことを、示ず所の明かなる證據であります。

此問題は既に過去に屬する問題でありますが、將來のことを說く爲に、此問題に論及せざるを得ぬのであります、卽ち世界の歷史は繰返すと云ふこともありますが、繼續するものであります。突然起る所の事件と云ふものは決してあるものではありませぬ、必ず突然に見えても其所に至らしむる所の原因と云ふものが無くてはならぬ、今日世界に生じて居る所の現象は、過去の現象が生み出した所のものであります。故に私が現在將來に於ける世界の大勢の變遷に就て、諸君の御考を喚起するに當つては、此過去に於ける所のバーバリズム野蠻力と云ふものは、其望みを達することを得ざりしと云ふ大事件を、勢ひ多少辯明せざるを得ぬ譯であります。而して經濟上の雜感と題しまする以上は、此問題に就て經濟の考を少し加へなけ

りやなりませぬが、此バーバリズムと云ふものの野蠻力と云ふものを十分に挫折するに至らざりしは何の爲めである、卽ち財力の不足と云ふものが一大原因をなして居る。經濟力の及ばざりしと云ふことが其一大原因であると云ふことは、是は餘り詳しく若くは大聲を以て言ふことを憚りますから私は申しませぬでありますけれども、諸君は御分りになるだらうと思ふ。さて此バーバリズムを倒したる所の過去の一大變遷、若くは世界の大勢の變轉と云ふものは、如何に變じつゝあるか如何に現在若くは將來に及びつゝあるかと云ふことが次の問題である。

乃ち今度は其バーバリズムの中に含まれて居つた所のミリタリズム、兵力と云ふものが、如何に上下を支配するかと云ふ今後の問題になつて來て居る。既に過去の、第一期と私は假に名けませう此第一期のバーバリズムの時代に於て此ミリタリズムを代表する所の獨逸帝國は、己れの將來に得る所の勢力、將來に行はんとする所の方針の爲に

露西亞帝國を餘ほど利用したのであります、卽ち三國同盟なるものは之を證明するのであります。而して其三國同盟なるものが一時功を奏したる結果として、卽ち三十七八年戰役と云ふものを幾分か喚起して、バーバリズム玆に一大打撃を蒙つた爲に、其バーバリズム卽ち野蠻力を利用して、此ミリタリズムなる、獨逸帝國の政策なるものが行はれざりしにもせよ、尙ほ獨逸帝國の此ミリタリズム、兵力を以て雄飛せんとする所の政策は、依然として繼續致して居る。續いて今や益々其鋭鋒を現はして居る、彼の金島問題果して如何、膠州灣の如きは愚かな問題である、今日に至つては則ち海運の擴張となつて現れて居る。此大方針卽ち兵力に依て世界を動かさんとする所の大方針なるものに依て、一番驚かされたる所のものは何所の國であるか、卽ち言はずと分つたる所の大英國であります。卽ち是が爲に大英國は日英同盟を爲さゞるを得ず、英露協商を爲さゞるを得ざる所以である、英露協商なるものは過去の歷史を其儘御覽

になつたならば、出來べきものでございませぬ英國露國なるものは、久しき以前より仇敵の思ひをなして居るものである。然るに一昨年に於て英露協商なるものに依て英露が提携するに至つたと云ふものは何の爲めである、尙ほより大なる所の敵を控へて居るからである。其他英佛の提携亦然り佛は獨逸に備へざるを得ぬのでありまず、實に佛の安危と云ふものは、北方に獨逸を挾んで居る所の露西亞帝國なるものが、其鼎の重さを知られた以上は、益々佛蘭西の地位と云ふものから見れば、其獨逸に備へる所深からざるを得ぬのである。故に英佛提携となり、而して英國皇帝陛下は餘ほどの御年配であらせらるにも拘らず列國を訪問遊ばされざるを得ぬと云ふに至つた、何も御遊山の爲に決して歩いて居らるる譯ではありませぬ、一々新聞に書かれ、一々人に目を着けられ中々暢氣な沙汰ではないのでありまず、けれども是れ英國の安危止むを得ざる事に、出でゝ居らると私は拜察し奉るのであります。卽ち外交の政策を君主の御

骨折に依て英國は孜々として此對獨政策を攻究致して居りまずるのは、是は諸君も疾くより御承知の事と存じます。然れども英國の立場たるや、勢ひ唯防禦に過ぎないのでありまず、受け身に過ぎないのである。此防禦と云ふ方は攻撃の側に比ぶれば餘程困難でありまず、殊に英國は御承知の通りの地形でありまずから、何れの地點よりも上陸さるゝの憂がある、又今まで海軍に重きを措きました結果、陸軍の勢力は迚も其相手と比べ物にはならぬのであります。又初め申上げました所の高等動物と云ふ點に於ては相手方よりは餘ほど高等でありまずから、獨逸の沿岸を砲撃さるゝ痛さと云ふものは、私は英國の沿岸を砲撃さるゝ痛さと云ふものは、私は數では比較は出來ませぬが數等の上にあると云ふことは諸君も御承知の通りである。英國が最も怖るゝ點は食道を絶たるゝと云ふ問題である、是れ卽ち諸君が昔から軍談などを聞かれても水を斷つなどゝ云ふことがある通り、食道を斷たれては內に百萬の貔貅ありと雖も、如何せん裸體で道

中がなるものか、餓えて戰爭がなるものかで、英國の食糧を支へる所の力の薄弱なりと云ふことは、自由貿易、保護貿易の講義に於て御聽きになつたであらうが、英國はどうしても自由貿易政策を取らなければならぬのであります。保護貿易政策を取れば英國々民は頤の下が乾上つて仕舞ふ以上は自由貿易政策を採らざるを得ぬ、之を支へる爲に海軍擴張せねばならぬのは勿論のことである。それに色々理窟を附けて言ふのは御苦勞千萬な話で、卽ち此糧道を斷たるゝと云ふ問題は、英國に取つては一大死活問題であります、玆に於てか海軍擴張、所謂自由黨政府一方には社會政策を採る迄に至りながら、海軍擴張と云ふことを止める譯に行かないのであります。是卽ち國家の死活問題に關係するから、卽ち今日に於て英國の爲すべき所は、唯如何にして此ミリタリズムに己れの弱點を襲はれざらんかといふことを憂へて居る。如何にして之を避け得るや如何にして之を防ぎ得るや、如何にして之を延ばし得るやに過ぎない、

進んで彼をやらうと云ふ迄の說はあるにしても甚だ實行困難であります。殊に英國が憂へるのは陸軍の點でありまして、是卽ち日英同盟が必ず日本側ばかりから必要である所以でないのであります。併し先づ餘り際どい所まで參りますと行けませぬから、其邊で御了解を願ひます。

而して此ミリタリズムを代表する所の獨逸帝國は何が故に左樣な雄圖を懷くか、第一期のバーバリズム、野蠻力の連邦に其翼を伸ばす所以は、內の爭亂を外の騷ぎに依て治むると云ふことにある歷史的領土擴張と云ふ病に罹つて居つた爲であつたのでありますが、此ミリタリズムを代表する所の獨逸帝國の此發展の必要は何れから來るかと言へば、卽ち產業の發達であります。卽ち是れ經濟問題であります。今や獨逸帝國は工業の發展に依て、自國の需用する以上の物品を製作致して居ります、人口は益々繁殖する、どうしても此販路を外に求め人口のはけ口を外に得るに非れば、獨逸帝國は安全に進んで參る譯に行かないのであります

す。卽ち是は產業の發展が、此政策の已むを得ざらしむる所以であります。故に一方に販路の擴張としては、既に後藤男爵の述べられました、お互ひが言葉すらも知らない位に暢氣に考へて居る所の支那と云ふ市場に向つて、暇々乎として歩を進めつゝある。今まで英國は己れの勢力範圍と云つて、大に威張つて居つたに拘らず、少しづゝ捩取られつゝあるのである。少くとも我が本當の勢力範圍であると云ふ揚子江沿岸すらも、獨逸の政策に依てポツリ〳〵やられて居る。而して殖民政策としては亞弗利加に或は其他の方面に向つて、盛んに色々な手段を講じつゝある。是卽ち獨逸帝國の產業の發達と云ふものゝ已むを得ざらしむるのであるから、露西亞のバーバリズムの問題よりは餘程此方が適切であるのであります。彼は時の君主が樂みとか或は歷史の行掛りとか或は名宰相の其政策の準備とか云ふ事でありましたが、是は現實必要已むを得ざる所の事實問題に依て動かされつゝあるのでありますから、止まんと欲して止むこと能はざるものであります。如何にして獨逸の經濟を支へ如何にして獨逸の人口を支へるか、獨逸の社會問題を如何せん、最早社會問題は獨逸帝國の殆ど骨髓まで食み入らんとして居ります、獨逸帝國の軍隊如何に强しと雖も、此社會黨の占むる所となつたならば最早用を爲さないのであります、是れ卽ち非常な問題である、非常な死活問題である、御分りになりましたらう。

社會問題に就て私が諸方で御叱りを蒙つて居ることがありますから、諸君の前に恥曝しを致して置きます。私は此社會問題なる社會の所謂病ひと稱する社會病と私が稱する所の、此產業革命から生ずる所の、經濟組織の一大激變、卽ち貧富の隔絕、資本勞力の集注と云ふ問題は、卽ち列國に於ては最早解決し、難い所の難問題となつて居るのであるが、當時日本に於ては未だそれが左樣に甚しくないからして、何か別な一つ解釋をしやうぢやでございませぬかと云ふことを申上げると、貴樣の說は陳腐で行かないと云ふ斯う云ふ御叱りを蒙

る。それならばです唯外國の本を御讀みになつて其通りあちらにある事だけを無理遣りに日本に御用ゐになつて、貧富の隔絶も甚しくしなくてはならぬ、資本も集注せねばならぬと云ふので、斯う云ふことを御說き下さるならば、則ち經濟學が、我國を益するに非ずして我國を害するものなりと言つて私は經濟學者の中から脫黨したいと考へます。左樣な研究ならば人の糟粕を御舐めになるのである、人の爲した陷穽に態々御入りになるのである、愚の極ではありませぬか。それから之を應用する所の工場條例の如きは社會政策の一として、成べく上下の間に存して居る所の、所謂上は下を憐れみ、下は上を敬ふ所の美風を以て、此所謂勞働使用者と、勞働被使用者との間を調和して行つて、資本勞力の壓力を緩めてはどうですかと言ふと、それも陳腐で行かないと云ふ、是も今申上げたと同じ理由である。それならば別に御研究を煩はす必要も何もないので、最早歐羅巴なり、亞米利加の諸國が陷つた所の陷穽に、段々入りつゝあるのですから拋つて置きさへすれば宜い、もう少し嗾しかけても宜い位のものである、卽ち日本が固有なる點、固有な研究に依て固有なる解決法を求めることが、經濟の學說の上に於て實際爲し得るならば、初めて日本の經濟學說と云ふものは世界に現れるだらうと思ふ。今日に於て日本の經濟學說と云ふものは、あちらの書籍に引用されて居る人が一人でもありますかあれば承りたい。私も書て居るんですから私のも駄目ですけれども、卽ち己れの腦髓から出て、日本の事實に依て書かれたる經濟書が、果して幾らあるか、それでは日本の經濟學と云ふものは、日本の事實に依て新しき學說が日本に出たと云ふことは、何れの日にか之を望むことを得ん。いつでも飜譯、いつでも引伸ばし、到底經濟學上日本が重きを爲すと云ふ日は無いのであります。彼の軍事上に於て日本が非常に重きを成した上は、引續き經濟學上に於ても重きを望む。然らば何も人のやつた通り、人の說いた通り後生大事に奉ずる必要はない、寧ろ進んで

違つた所の解決法、違つた所の說を、自分の立場に依て唱へるに至らんとを切に望むのであります が、此外の點は未だ駄目です。外の點は勞の割合に功が少いが、此社會問題、是はもう社會の學者政治家、慈善家、宗教家、警世家、猫も杓子も籠つて居る、此問題を日本が新たなる解決法を與へるならば、日本は非常な稱贊を蒙り、非常に又社會を益する問題だらうと思ふ、それでそれはちよつと傍道に入つたのでありますが、兎に角此問題は我國に於ては、未だ左ほど猛烈なる形になつて現れて居りませぬけれども、最早獨逸帝國には現れつゝある。若し此ミリタリズムと云ふものをして其欲望を逞しく行ふ能はざらしめんと欲すれば此社會病を甚しくするが宜いかも知れぬ、或は此社會病の爲に、ミリタリズムが中途にして己れの欲望を止めなくてはならぬやうになるかも知れませぬ、さうすれば甚だ世界の爲には結構でありますが、獨逸帝國中々容易なことでは止めない。而してもう一つ考へなきやアならぬのは、此社會病なるものが、若し帝國に現れたならば、私は歐羅巴亞米利加に於けるが如き、穩かなる狀態に於ては、居られぬと思ひます。是は私の豫言が必ず十年とは申しませぬが百年千年の後には此激し易き人心此平等の精神に富んで居る孔孟の敎に依て、所謂一視同仁と云ふ精神に富んで居る人民の間に、此社會病と云ふものが甚しくなつたならば、爲に激烈猛烈なる形を帶びると云ふことは、私は斷言するに憚らぬ、故に是は彼れ歐羅巴亞米利加が怖るるよりは、より多くの怖れを以て之を未然に防ぎ之を緩和することを研究するのは、是は經濟學者の一大責任であると私は考へます。

先づ本問題に復りまして、此に於てか此社會病と云ふものゝ爲に中途に挫折せざる以上は、獨逸帝國のミリタリズム、兵力と云ふものに依て、大なる影響を蒙る所のものは英國であります、殊に英國は前申上げまする如く、食道を絕たるゝ外に其貿易船と云ふものを世界一般に擴げて居りますから、此船路を斷たれた以上は、英國を支へる

血液と云ふものは直ちに濁れて仕舞ふ。獨り陸上の沿岸の砲撃を蒙むる害が大なるのみならず、商船を一々撃破された以上は、英國の損害實に測り知るべからざるものがある。故に此英獨の反目、英露の協商と云ふことの結果如何と云ふことは、吾人が大に注意を以て常に見て居らなければならぬ大問題であります。幸ひに英獨の間事無きを得ば大に賀すべし、事ありとせば我亦この影響を蒙らざるを得ぬのであります、唯間接の影響だけならざらんことを怖る、直接の影響を蒙らざるを得ないかもしれぬ。卽ち此問題は決して他人の問題ではない、自家の問題である、或意味からでは日本の問題である。然るにどうも平氣に看過されて居ると云ふことは、私密かに其意のある所を解するに苦んで居る。然れども世界の此文明の制度の發達、貿易、商業、工業の進歩、又此國民の利害と云ふものが重きを致して、今日に於ては容易に此英獨の間、平和の破るゝことはないかも知れませぬ、幸ひに事なきを祈る、然らば天下泰平を謳ひ、列國皆無事、枕を高うして高鼾をして寢て居て宜いかと云ふ問題に移るのであります、曰く否と云ふことになる、卽ち私が是からは豫言者になるのでありますから當らぬかも知れませぬ、當つたらお慰みだ。

今迄のは諸君も私を御信じ下さるだらうと思ふ卽ち過去の此バーバリズムの問題は是はもう既に解決せられた、此ミリタリズムの問題は諸君の目の前にぶら付て居るのである。日常の仕事が之を證明しつゝあるのでありますが、此第三の大勢の變轉、卽ち生産力が如何なる働きを爲すかと云ふ問題になる、成程英國も實に其領土の廣さと云ひ、今や世界の第一位を占めて居ると言うて宜しいのであります。けれども如何にせん英國は其國情國土に限りがある、或は曰く太陽の沒する所なき領地を持つて居るではないか、殖民地があるではないかと仰せらるゝが、是亦一つの問題である、續いて居る所の領土と、海を隔てゝ居る領土とは、既に申上

げましたミリタリズムの上から言へば非常な違ひである、海を隔てたる領土は弱點がありまず、之を守るが爲に非常なる軍備を要する、非常なる防衛を要します、之に反して續いて居る所の大陸の領土は、經濟上、又軍備上から非常なる利益を得るものであります。大陸に領土を有し、而して將來此生産力を以て、世界に雄飛せんとする所の國がありはしませぬか、卽ち曰くあり北米合衆國是れなり。成程英國の領土を合し殖民地を混合せしむると云ふ説もある、諸君も御聞きになつたでありませう、が果して之れの實行如何、殖民地既に各々現存する所の利害を異に致して居ります、果して是が母國の爲であるか、各々總て利害を捨てゝ一つの國旗の下に集るや否やと云ふことが是亦證明されて居りませぬ、或はジョセステンボレ氏が餘命尙ほ長くして、先生が非常なる活動力を以て、其の問題の爲に盡されるならばいざ知らず、惜しいかな氏も最早それだけの年でもありませぬ、又氣力もありませぬ。之に代つて奮鬪する所の人

英國にあり否や、ありとしても其事が事實行はるるや否やと云ふことが問題であります。其疑問の間に最早成立つて居る所の大陸を以て、既に發達して居る所の工業を以て世界を驚かせつゝある所の北米合衆國なるものを如何せん、無限の天然力を有し、其人民や實に活動力に富んで居る、而して之に伴ふ所の資本は自國に於て足らざる時には、歐羅巴から引張つて來る力を持つて居る、近頃の英蘭銀行其他の銀行の利子を、うろたへて上げるのは何の爲めであるか、此大勢力の爲に備へるに過ぎない、自國の何とかゝとが言つた所がそれは嘘でありまして、本當は他にあるのであります。此大勢力と云ふものは、今や經濟上世界を動かしつゝある、其弱味を見せない爲に他のことを言うて居るに過ぎないのであります。一度亞米利加が穀物を歐羅巴に賣込んで、其代金を得る時に於ては、歐羅巴の中央銀行は滅茶々々になつて仕舞ふ、一度亞米利加人が自分の所有して居る所の歐羅巴の有價證券を賣り、若くは倫敦伯林の市

場に於て投賣した時に於ては、歐羅巴の取引所は皆滅茶々々になつて仕舞ふ。小さな例を申しました所が亞米利加人が歐羅巴大陸を旅行する時に於ては、他の國の者は顏色なしであります、ヤレ亞米利加人が來たと云つて皆逃げて仕舞ふ、金力に於て彼に敵することは出來ない。英國の有名なる書は誰に買はれんとしたのでありますか、英國人が、此書を出しては國辱であると言うて、非常な騷ぎをして僅に繋ぎ留める位のことで、それは細事でありますが、此北米合衆國の勢力と云ふものは、今や實に侮るべからざる有樣になつて居るではありませぬか。保護政策は亞米利加を進めたなど〻云ふは嘘の皮であります、如何に保護した所が、亞米利加のあれだけの天然力、あれだけの人間、あれだけの資本と云ふものが保たれなかつたならば、如何に保護政策ありと雖も、あれだけに行くものでない、未だ耕さゞる所の土地を持つてあれだけの活動力に富んで居る人民が耕し、さうして蓄積した所の資本を之に加へたのであります

から、保護政策など〻云ふものはどうでも宜しい、亞米利加の今日あるのは天然力と、資本との結合宜しきを得たことの然らしむるのであります。故に此インダストリヤリズムを代表する所の、北米合衆國の將來如何と云ふことは非常な問題である、なぜ非常であるか、それならば金を儲けるか、商賣とか工業とかゞ發達するだけではないかと言ふが其所が困る。今日の軍備、今日の戰爭は皆金力に非れば出來ぬ、一國の內の內亂位はどうか知りませぬけれども、徵發とか何とか無理を言つて、人民を苛めて、たゞで戰が出來ますか知りませぬが、苟くも國際間の戰爭になつたならば、容易の金ではない。彼のドンツトノートカットを拵えるには二千萬圓要ります、彼の右舷に備へてある鐵砲、右舷だけの鐵砲の火藥其他の材料が二萬圓掛かる、私は知りませぬが聞いて來たのだから嘘はあるまいと思ふ、一分間に六回擊てる、さうすると十二萬圓は飛んで仕舞ふ。さう云ふ軍備の變化しつ〻

ある時に於て、金が無くて所謂國際上の戰爭に勝を制すると云ふことを考へたならば、金が無くては列國の平和を保つに足る所の基礎を成し得る、など〻云ふ考を抱いたり何かするのは、是れ卽ち過去の夢に迷はされて居る、所謂痴人の夢とでも稱すべきものであります。然らば此財力を最も巨額に備へ、最も自由に動かし得る所の北米合衆國は卽ち單に平和的一國として之を認め得るや否や。既に諸君が御覽の通り其然らざることは、支那帝國に於ける鐵道が之を證明して居るのである。何が爲に英獨佛のシンヂゲートに、亞米利加が後れ馳せながら加はるのを必要としたりしや、矢張り支那帝國なるものは、どうしても此世界を動かす所の勢力にならんとするのには、殊に產業の發達から來た所の販路擴張と云ふことから、どうしても支那帝國は何れの國に於ても見遁されては居らない。既に第一期のバーバリズムと雖も之を見て居る、第二期卽ちミリタリズムは今最も之に力を注ぎつ〻ある、第三期のインダストリヤリズムと雖も見遁しはしませぬ、其見遁さゞることは、あの擧動で御分りにならなければ將た何とか評せん、さう駄目です。それ故に此インダストリヤリズムと云ふものが、其餘る所の財力を以てミリタリズムと云ふもの〻性質を加へたならば、天下に敵なしと云ふことは明かであります。ですから若し將來此ミリタリズムが、インターステリヤリズムと合するや否や、どうも合せざるに終らないかも知れない、併し其合するや前申しました、第二期の英獨の衝突の後にあるや否や、前にあるや否やと云ふ如きは、實に大問題であらうと思ふ。私が亞米利加人ならば、是は英獨の衝突の後まで待つて居る方が得策であらうと思ふ。それでございますから英獨の衝突が幸ひに避けられれば宜しうございますが、避けられなかつた時には、第三期のインダストリヤリズムなるものは、中々えらい勢ひを以て働き得ると云ふ時勢になる。假に衝突が無かりしとしても、其間には互ひに疲れては仕舞ふ、矢張り結局インダストリヤ

リズムなるものは、最終の勝利を占むるのではないか。併し此インダストリヤリズムは、ミリタリズムと云ふものゝ分子を總て離るゝ、平和的思想の以外には何等の念を抱かない、何等の欲望をか抱ないと云ふ證明が立ちましたならば、或は世界の平和と世界の現狀、支那のバランスオブパウワーと云ふか、勢力の權衡と云ふものが保たれ得るかも知れませぬ、是れ卽ち疑問である。是卽ち豫言であると申した所以であります。故に今日目の前にある、若くは近き將來にある所の英獨の關係ばかりではいけませぬ、此米國の將來如何と云ふことは、お互ひが前よりはより大なる注意を以て見なければならぬ大問題である。

斯の如きことを申上げたならば、或は我國の近い目の前の事、一部分の事、詰らぬ御殿女中の喧嘩ばかり流行つて居る世の中に於ては、發狂者を以て目さるゝかも知れぬが、發狂者だらうかどうだらうかと云ふことは分らない、卽ちこれ世界將來の歷史であります。故に經濟學者と雖も、どうしても是は大勢を見ると云ふことは爲さゞるを得ぬ譯であります、保護貿易、自由貿易などの議論ばかりして居つてからが疾くに飛んで仕舞つて居るのであります。前申上げました所に依ればまるで分らぬ位のものである、それで以て能事終れりと云ふ譯には行かない、唯一國の經濟と云へば、一國が卽ち、一國家であつて卽ち天下である、卽ち世界であると云ふ時勢に於てはそれで宜しい、今日に於ては列國の一分子に起る所の事變と云ふものは全世界に響くのである。伊藤公の不幸は全世界を動かして居る、伊藤公實に偉人でありし爲めであると同時にです。一國の變動と云ふものは世界を動かさゞるを得ないと云ふ時勢になつて居る。故にどうしても此經濟學と雖も、世界列國の大勢と云ふものゝ趨く所果して如何、變化する所の狀態如何と云ふことは、常に攻究せざれば、其爲すところ甚だ功を成さないのみならず、害を爲す場合があるからであります。それで私は諸君の如き經濟學說に身を委ねてゐらつしやる御方に

向つて、今日では私が俗事に追はれて居る悲しさ到底諸君に敵はぬのでありますから、私は學說めいたやうなことは申上げませぬが外から見て居りますると、唯どうも學說ばかりで天下の事をおきめになるやうに見えまするからして、それでは如何でありませうかと云ふ、斯う云ふ疑問を提出した所以であります。現に私が學說としても、どうも大に不審に思つて居る點は、今日いろ〳〵經濟學說とか、經濟論文とか大家の訪問錄とか色々結構なものを拜見しまするが、根本の問題に及んで居る場合は甚だ少いのを遺憾とする。我國の食物を如何にするかと云ふ如き問題は、實に適切なる問題であるが、是は未だ私は研究されたと云ふことを聞きませぬ、食物の供給果して足りるや否や、私は私の尊敬する人より日本は米食と云ふものを止めると云ふことが、日本の爲に必要ぢやないかと云ふ論を承りましたが、是は別論にしまして何でも宜しうございますが、兎に角食物如何と云ふ大問題の如きは、別に研究されて居ない。日本は工業製作とか云ふやうな話が色々ありますけれども、原料の獨立と云ふことが、解決されて居るや否やと云ふことも承らぬ、此小さな國で原料まで栽培すると云ふことは到底出來ませぬ、工業上の競爭が烈しくなつて止まることはないのに、原料が無い時には自分で隨意の價をきめることは出來ない、工業立國なんて威張つて居たつて原料が無くつて何になる。勞力の如きも、封建時代と同樣な勞力の狀態に在つて、列國と競爭なんて片腹痛い、職人はどうだと云ふと、朝九時に出て行つて一時間煙草をのんで、さうして十二時になると辨當を取る、一時になる迄は晝休み、暫くすると又三時頃茶を飲み此頃ぢやア五時頃歸る、正味働くのは四時間、斯の如き高い勞力は何所にありまする歐羅巴と雖も八時間勞力と云ふことは言ふが、四時間勞力とは言はぬ。さうして賃金の廉いとか何とか云ふ、譯の分らぬことに滿足して、子供やら女やらを無闇に働かして居眠さして置て、さうして出來る物は滅茶々々、それで日本の勞力は廉い

なんて、それが私にはどうも分らないです。それで工場條例などを設ける、工場條例が無いから、居眠をさしても勞働者が威張つて居ると云ふのは甚だをかしい、是れ卽ち經濟上の攻究が足らない經濟の學說が十分に行渡つて居らぬからだ。それでありますがさう云ふ問題は諸君の方が、私よりは能く御存じでありますから、今日は時もありませぬからさう云ふ問題には入りませぬ、唯私が此廣き宇內の有樣、遠き將來を考へますると云ふと、所謂雜感交々起る、それで他の所で言ひますと、叱られたり狂人だと言はれますから、多少研究を持つて居らつしやる諸君の前ならば、御叱りもあるまいと思つて、乃ち今日此題を揭げた所以であります。

どうしても此第一第二第三期に於て必要なりし問題は、何であるかと言へば財力でありまして、支那帝國であります、卽ち販路擴張の場所であります、而して國民の經營力であります。我國の商工業……農業は是は大分發達して居る、無論未だ耕地整理とか、未開墾地の開發とか云ふことは力めてやならぬと思ひますが、商業工業に至つては新しい問題ですと少しも進んで居らない、本當にやられて居らない、我國の工業家などゝ云ふお方は何をしてゐらつしやいますか、工業會社員などゝ云ふ者は何をして居りますか、まるで何の爲に會社に從事して居るか分らぬのであります。甚だしきは會社の原料が高くなれば其會社の原料を賣つて仕舞ひます、廉くなりやア其原料を會社に賣付けて居るなどゝ云ふ話が屢々ある、それで日糖などと云ふ問題が起るのです、起らざるを得ぬ、起るが當り前である。それで監査役制度をどうとやら斯うとやら、制度の問題ぢやないです、幾ら監査役を嚴重にした所で、惡るい事をしやうと思へば幾ら番人を附けたつて駄目だ、眼をかすると云ふことは、見て居るよりは餘ほど巧みに出來るのです。初め申しました防禦と攻擊と違ふが如くです、中々此泥棒を押へやうと云ふことは餘程困難で、盜むことの方は自由自在です。それで此財力の培

養として、支那帝國市場を失はざる國民の活動力と云ふものは、此世界の大勢を變ずる間に處して、我國、我身、我家を保つの手段である、是より以外には途は無いのであります。是等の點に於て缺くる所あれば、則ち此大勢に捲込まれて仕舞ふ、大勢に後れる—大勢に後れる所ぢやアない大勢に併呑せられて仕舞ふのである。或はお互ひ私共ももう餘り先は無いのであります、諸君の一代位は未だ宜いかも知れませぬ、其先き果して如何と云ふ問題が殘る、是は已れ一己がどうやら斯うやら暮せば宜いと云ふならば、それで宜しうございますが、それでは甚だ國家に冷淡なるものである、我が子孫に甚だ冷酷なるものである、どうしても國家の將來を考へて其安寧を保ち其幸福を增進して行くことを力めると云ふことは、矢張經濟學者が其責任を荷つて居ると思ひます。して見れば此大勢の動く所を察し、此大勢の如何に處するかと云ふことは、經濟學者としてどうしても攻究しなければならぬ問題である。況んや經濟と云ふ問題が、我國に於ては最も遲れて居る、又此將來の大勢の變轉する大原因、之を左右する所の原動力と云ふものは經濟にある、故に諸君の經濟に對する研究と云ふものは、益々十分ならんことを祈る、益々永遠に亘らんことを希望する。

今日我國に於けるが如く、目前の勝利、眼前の利害、區々たる行掛りなどに依て左右せられて居つては、國家の將來甚だ憂慮に堪へない、それにもう禿頭はどうでも宜しい、お互ひ青年—お互ひッて私もマア青年の仲間へ入れて貰へば有難いですが、マア私は中年と致しませう、諸君の如き青年の責任が甚だ重大である、此繼承者たる所の諸君が、後を承けたる所の諸君が若し此大勢に應ずるだけの準備をして下さらぬければ、則ち萬事休む矣。（柏手）